

入賞作品集

一行詩部門&写真部門

男女共同参画都市宣言

社会のあらゆる場で

男女の人権は 互いに尊重される事が必要です

私たち山形市民は 真のパートナーシップの実現を目指し

さまざまな分野に 男女が平等に参画できる社会を創ります

次代を担う子どもたちに とともに信頼し支え合う大切さを伝え

市民一人ひとりが 力強く歩み続けることを誓い

ここに 山形市は 男女共同参画都市の宣言をします

平成10年9月 山形市

最優秀賞

Life is a JOURNEY
大場 友美

子育てが終わったら、
二人で世界を旅しよう。

● 審査員からのコメント

希望に満ちた美しい作品ですね。
家族四人のシルエットもしっかり決まっていますし、後に配置した人達の姿がこの光景の広さや空気を引き立てています。



入賞作品総評

木村 松子 審査委員代表(山形市男女共同参画審議会会長 山形大学男女共同参画推進室准教授)

昨年、山形市が行った意識調査によると、「夫は仕事、妻は家庭を守る」というような性別役割分担意識に反対という人が約50%で、賛成32.4%を大きく上回り、国や県の調査と比較しても反対の人の割合が高いことがわかりました。固定的な性別役割分担意識にとらわれない考え方が着実に広がっています。この男女共同参画に関する作品づくりにご応募いただいた毎年1,000人を越す方々のお力も大きいものと確信しています。

今年の一行詩部門の「大学・一般の部」の最優秀賞、優秀賞の作品は、日常の風景の中でふっと気づいたことが端的に表現され共感を呼びました。「中学・高校の部」の最優秀賞、優秀賞の作品は、育児をする父親への温かい視線、将来の職業への力強い視線が伝わってきました。写真部門でも夫や父親の姿が目を引き、ワーク・ライフ・バランスの大切さを改めて実感させてくれました。これらの作品を味わっていたきたいと思います。

佐藤 孝弘 山形市長

山形市では、平成10年9月に県内初となる「男女共同参画都市宣言」を行い、平成25年3月には「男女共同参画推進条例」を制定し、男女共同参画社会の実現に向け、様々な事業に取り組んでいます。

この「男女共同参画に関する作品募集」も、こうした取り組みの一環であり、男女共同参画に対する市民の理解を深めるとともに、市全体でその機運を高めるため、平成13年度から毎年実施しています。

今年も幅広い年代の皆様から、一行詩部門1,883点、写真部門21点と、たくさんの作品をお寄せいただきました。特に、一行詩部門には、多くの中学校、高校、大学において、クラスや学年単位、さらには全校を挙げて意欲的に取り組んでいただきました。ご応募いただいた皆様方に心から感謝申し上げます。

今回入賞されました作品は、いずれも男女がお互いを思いやり、協力することの大切さがよく表現されており、男女共同参画を当然のことと捉えた作品も多く見られ、皆様に男女共同参画の意識が高まっていることを実感し、大変うれしく思っております。

こうした取り組みを契機として、市民の皆様にも男女共同参画の輪がさらに大きく広がっていくことを切に願っております。

審査員一覧 (順不同、敬称略)

山形市男女共同参画審議会会長 山形大学男女共同参画推進室准教授
山形市男女共同参画審議会委員 山形市立山寺中学校校長
山形市男女共同参画審議会委員 山形市女性団体連絡協議会
山形市写真連盟会長
山形市企画調整部長
山形市企画調整部男女共同参画課長

木村 松子
舩山 章弘
廣部 公子
軽部 治悠紀
岩田 雅史
齊藤 順子

優秀賞



未来予想図
金子 侑莉

身近な男女共同参画であり、私もこう
なりたいてと見ていて思ったからです。

● 審査員からのコメント

お父さんとお母さんへの尊敬の心と愛情が
素直に写っています。人生の中で何回か
名カメラマンになるチャンスがありますが
そんな一枚ではないでしょうか。

入賞



4世代で畑作業
五十嵐 健裕

蔵王での畑作業風景。
歳の差約80歳、
家族みんなで
楽しく一服したら
もうひと踏ん張り！



仕上げはお父さん
菅江 正幸

お母さんに
やってもらうのもいいけど
お父さんに
やってもらうのも好き。
意外とやさしいお父さんの手。



頑張るパパ
田中 伸幸

共働きの今、育児だけでなく、
家事や炊事も夫婦が共同して
やってほしい。そして旧来の
慣習にとらわれない新しい
生活のスタイルを築いてくれる
ことを願っている。